

令和 8 年 4 月 1 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

埼玉県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
上尾市立西小学校	上尾市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価・保護者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立西小学校ウェブサイト 令和 7 年度特別の教育課程の自己評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/nishi-elementaryschool/list50-2189.html
学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立西小学校ウェブサイト 令和 7 年度特別の教育課程の学校関係者評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/nishi-elementaryschool/list50-2189.html
保護者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立西小学校ウェブサイト 令和 7 年度特別の教育課程の保護者評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/nishi-elementaryschool/list50-2189.html

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまで A L T の配置や、各校、カリキュラム・マネジメントにより、柔軟な時間割の編成を行う（時間割・日課表・年間行事計画等の工夫、モジュール学習、週 2 9 コマ等）など、英語教育を推進してきた。平成 3 0 年度から、小学校 3 ・ 4 学年で 3 5 時間を、小学校 5 ・ 6 学年で 7 0 時間の活動型の英語教育として、外国語活動を実施してきた。

また、令和元年度から、小学校 1 ・ 2 年生においては、学校教育法施行規則第 5 1 条に定められる授業時数以外で、年間 1 0 時間程度の外国語活動を実施するほか、英語の授業以外に、休み時間等を活用し、児童と A L T が自由に会話を楽しむイングリッシュトークの実施を通して、日常的に A L T と触れ合う機会を充実させ成果を上げてきた。

学習指導要領の完全実施に伴い、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

- ア 小学校 1 ・ 2 学年において、1 年生は年間 3 4 時間、2 年生は年間 3 5 時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施する。
- イ 本市の研究組織である英語活動充実のための検討委員会は、上記アの時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

- (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性
本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、英語活動を通して、グローバル化社会で活躍する力を育成する。
- ア 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。

(3) 特例の適用開始日
令和2年4月1日

(4) 取組の期間
無期限

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
・一部、計画通り実施できていない
・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

- ・小学校第1・2学年において、1年生は年間34時間、2年生は年間35時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施した。
- ・45分授業ではHRTとALTが連携して授業を進め、コミュニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。
- ・ALT派遣会社を招き、校内研修を年2回実施し、英語力や英語指導力の向上に努めた。
- ・指導者を招き、各ブロック、計3回の校内授業研究会や開催したり、上尾市教育委員会委嘱研究発表会などを行ったりした。協議会を通して、指導力の向上に努めた。
- ・CAN-DO リスト改訂版を活用しながら、学習到達目標を児童が達成できるよう支援した。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
・実施していない

<特記事項>

- ・学校だより、ホームページ等を活用して、英語活動の様子を積極的に情報発信した。
- ・学校公開では外国語活動や外国語科の授業参観を公開した。
- ・学校運営協議会でも英語教育の取組を紹介した。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、小・中9年間を見通した英語教育を推進するものである。

本校の保護者の評価結果を分析すると、「本校は積極的に英語活動を推進している。」の項目で、「よく思う、そう思う」と回答した保護者の割合が82%であった。授業外の活動として、スマイルタイムやEnglish Dayを実施していることが高い数値の要因として考えられる。楽しそうに取り組んでいる児童が多く、授業外でも楽しく英語で会話する姿が見られた。給食や掃除の時間、English Dayにおいて、授業とは違ったフリースペースの機会があり、「どうしたら伝わるか」、「何て言ったらいいのかな」と思考しながら、会話も多く生まれ、語彙力の向上に繋がった。スマイルタイムでは、ビンゴやSimon Saysなどの活動での異学年交流もあり、相手意識をもった活動を行うことができた。教職員の英語での呼びかけに対しても、自然と受け答えができる児童が増えてきている。

教室での授業時には、低学年らしく、コミュニケーションを図ることを楽しんで活動している様子が見られる。学校で学習した内容を保護者に伝えたり、授業時間もALTに積極的にあいさつをしたりしている様子から、児童の英語に対する興味が高くなっていることが伺える。

一方で、「家庭で時々英語を使って話そうとしている。」の項目で、「よく思う、そう思う」と回答した保護者の割合が、51%になった。「進んで英語を話す」という市が目指す児童像の達成には課題が残る。口ずさみたくなるようなチャンツや、誰かに伝えたいような表現を使ったアクティビティを取り入れることで、児童がより英語に慣れ親しむことができる学習内容を工夫することで、「進んで英語を話せる」児童を育成していきたい。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、ALTが常駐配置されているため、児童は授業以外でもネイティブ・スピーカーの生きた英語を体感し、実生活に近い状況での英語によるコミュニケーションを経験したり、異文化に触れたりしている。そのため自然と他国を尊重する心を育てている。

また、ALTの問いかけに対して無反応の児童がほぼおらず、積極的にコミュニケーションを図ることができていた。英語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を活用して、互いの考えや気持ちを伝え合うことのできる児童が増えているとともに、コミュニケーション能力を着実に育成できており、特例校の取組の効果が表れている。また、保護者の評価結果において、「日本や外国の文化に興味・関心を示している。」の項目では、「よく思う、そう思う」と回答した保護者の割合が61%となった。昨年度に引き続き、給食と清掃の時間にALTが各教室と一緒に活動することに加え、休み時間にALTと交流する時間を設けたことで、外国の文化に触れる機会が多くなったからであると考えられる。

一方で、保護者の評価結果において、「学校の英語活動の様子について話している。」の項目では、「よく思う、そう思う」と回答した保護者の割合が66%となっているが、まだまだ低い数値と考える。来年度は保護者と会話するような宿題を出したり、家庭を巻き込むような課題を設定したりすることで、各家庭で保護者と児童が英語で話す機会を増やしていきたい。

5. 課題の改善のための取組の方向性

4に示すような課題を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図りながら、今後は学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価のあり方について、さらなる研修を進めていくことが重要であると考えている。英語活動充実のための検討委員会で作成した指導案例及び教材の活用、また、教育委員会主催の研修で学んだことを全校に広めるなどして、児童が英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していく。